

## 子どもの遊びを理解するために

Understanding Children's Play

R.E.Hartley, L.K.Frank, R.M.Goldenson.

Columbia University Press. N.Y. 1952

梅雨の晴間、吸い込まれるように庭に飛び出し、水たまりにはいりこんで、ぴしゃぴしゃ水をはねかしたり、泥水に手をつっこみ歓声を発している子どもたちの姿を、今日この頃の幼稚園ではよくみかけるのであるが、服をぬらしたり汚したりして、教師にとって、余り歓迎する姿ではないようだ。

コロンビア大学より出版された“Understanding Children's Play”と題した本の中に「水遊びの恩恵」という章があり、非常に示唆するところが多く、指導の手がかりを充分得られると思われるので概略を紹介してみる。

この章は、序文、基礎となる感覚的経験、支配の感覚、未熟なもののための満足、攻撃欲のはけ口、休息と熱中、解放する効果、水の多変性、教師の水遊びへのアプローチ、結論から成り立っており、各項目には二、三の観察記録がのせられている。そして、全体を通して、水遊びは、子どもにどんな恩恵を与えらるか、なぜこの単純な物質がさまざまな効力をもつか。教師はどのように水遊びにアプローチしたらよいか、について述べている。

### ○序文

三才児が興味深く人形の靴下を洗ったりゆすいだりしぼったりしているのをみたことのある人は誰も「水」というものが幼ない子どもたちを捕える強い魅力をうたがうことはできない。「水」はいろいろな種類の活動に役立ち、手を使うことやその他の学習を提供する。しかし、水遊びを推薦するのは、ただ学習的価値だけではない、もっと価値あるものがある。それは、子どもたちの歓喜と遊びへの熱中である。

現代の心理学では健全な発達のため要求の実現を重視しているのに、自由に対する子どもたちの要求や水遊びのもつ中断されない実験や探究が殆んど無視され、ナーサリー・スクールや幼稚園のプログラムに水遊びが積極的にとりいれられていないのはどうしたことだろうか。たまたま十二人の教師に彼女たちのグループで利用される材料に関してたずねたところ、二人だけが、「水」を材料として語ったが、それも、皿を洗ったり、棚を掃除したりというような、ままごと遊びの補加的材料として認めたと過ぎなかった。我々が基

礎的材料として「水」を使うことの可能性に  
関して、示唆した時かなりの反対に合った。

それは、例えば、水を乱暴に使って困るだろ  
うとか、集団の中で水を使うことを許した  
ら、めっちゃめっちゃになるだろうとか、両親た  
ちが彼らがぬれるのをいやがるだろうとか、  
汚した後の掃除をさせたら両親が何というだ  
ろう、などということだった。しかし、これ  
らの反対項目は除外しうるので。例えば、掃  
除は粘土やフィンガーペイントの後の掃除と  
同様水遊びの進行の一部として遊びの中に含  
めることが出来る。子どもたちは大喜びで掃  
除する。ぬれる心配は、防水した上着や油布  
のエプロンやプラスチックの履物を用意すれ  
ば解消される。けれども、幼ない子どもたち  
は、時々ロッカーで衣服をかえることが出来  
るようにしておくことが必要である。

もつと理論的見地から、子どもの発達に水  
遊びが如何に貢献するかを考えてみよう。

学令前の子どもの経験はまだ大部分感  
覚的であるのだが、彼らの探究に対する強い  
要求は常に抑制されがちである。食物は遊ぶ  
ものでなくて食べるものである。子どもたち

の排泄物や小便は、子どもたちと非常に密接  
な関係があるにもかかわらず、それらは手で  
さわるべきものでない……とされている。子  
どもの考えでは、自分の身体の生産物は他の  
物質と同様に正常なもので、子どもたちのそ  
れらを学ぼうとする要求は非常に強いもので  
ある。この権利を否定することは彼の存在を  
疎外することであって、子どもたちは否定さ  
れた活動の代りに、受けいれられるものを追  
求することが出来なければならぬ。「水」  
に近付くことによって、現代の文化が要求す  
る機会が与えられるのである。

序文に続いて、六つの項目の中で水遊びの  
恩恵について次のようなことが述べられてい  
る。○水遊びは認識的生活の基礎となる感覚  
的経験を豊富に与える。○水は子どもに支配  
と成功感の満足を与える。○攻撃的衝動を発  
散させることができる。○心の休息と熱中を  
与える。○心を自由にし、解放する。

#### ○基礎となる感覚的経験

感覚的経験は後になって発達する抽象的能  
力の基礎となるもので、子どもたちには自由

に探究したり感覚によって直接経験する機会  
を与えることが必要である。学令前というの  
は考えるより経験や身体を通して学ぶ時代で  
あるから特に重要である。水遊びはこの重要  
な感覚的経験を豊富に与え、子どもは水遊び  
から感覚的喜びを充分味わうのである。

都市の環境は、コンクリートの層にかこま  
れ土とは絶縁されているので、子どもの感覚  
的経験は非常に限られている。触れることに  
よって探究されないものが余りにも多い。水  
は手元に普遍的にあり、都市の子どもにも簡  
単に間に合い、またすべての子どもにも分配  
できるのであるから、この可能性がもっと広く  
認識されるべきである。

しゃぼん玉で遊んでいるバッドという子ど  
もの記録がのせられているが、バッドは水  
中に手を突っこんだり、水をはねかしたり、  
しゃぼん玉をふいたり、あわにさわったり、  
それをこわしてみたり、石けん水をにぎった  
り、あわの中にあごや鼻をつっこんだり、舌  
の先で味わってみたりする。しゃぼん玉遊び  
が如何に子どもに活気と歓喜を与えるか、が  
充分理解される。

### ○支配の感覺

水が与える豊富な感覺的喜びと学習的經驗に加えて、水というのは子どもに支配と成功の満足を与える基礎的材料である。一般に行動を制限されている子どもや、新しい活動を試みるのに消極的な子どもにとって、しゃぼん玉のような水遊びは、自我を形成するすばらしい機会を与えるようにみえる。子どもたちはしゃぼん玉遊びが非常に好きで、長い時間しかも充分満足して従事している。

非常に引つ込み思案なチミーという子どものバズル遊びと水遊びの觀察記録が対照的にせられているが、バズル遊びは、彼に要求阻止と依頼心を与えたが、水遊びでは、満足と自尊心を得ることができた、と述べられている。

### ○未熟なもののための満足

社会的な発達や注意力や自発性に関して他のものにおくれている子どもたちの心には、水遊びは王道であるようだ。水は、いかなる活動よりもずっと長く集中し、好きなように扱えるので、非常に喜びを得るようである。こういう子どもたちにとって、水は口や觸覚の喜びと攻撃欲の発散という二つの満足を与え

る。彼らの遊びは非常に単純で繰り返しが多く、一つのテーマでまどめられているが、その遊びをしている時の彼らの喜びと、中断したり気が散ったりするにもかかわらず、水遊びにもどるその粘り強さが、彼らにとって水遊びが如何に重要かを示しているのである。

### ○攻撃欲のはけ口

子どもたちは、公然と表現出来ないような感情、例えば、反抗、恨み、敵意などの感情をそれとはなしに表現していることがある。水遊びもそのはけ口の一つの路である。例えば、或る子どもは、粘土で作った男の人形を、水をかけて消滅させ、或る子どもは人形の馬車に、水をたくさんかけて、めちゃめちゃにしたり、床の上に滝のように水を流したりする。こうして、これらの子どもは攻撃欲を発散させたのである。

### ○休息と熱中

一方、或る教師は、水遊びが爆発的で、散漫な子どもにとって、心を落ちつけ、遊びに熱中させる性質を強調する。ナーサリー・スクールの或る教師は次のように語った。「水は心を落ちつかせるものです。非常に心が荒

れていたバースという子は、水遊びでは非常に幸福そうで長いことその遊びに熱中していました。私たちは子どもたちの心が荒れてくると、心をしずめるのにもいつも水遊びを使います。子どもたちが興奮して乱暴になった時は、グループごとに、水遊びに連れてゆきます。特に雨の日にはそうします。戸外では水を注ぎながらティーパーティをしたり、砂と砂を注ぎながらティーパーティをしたり、砂と砂を注ぎながらティーパーティをしたり、砂と砂を注ぎながらティーパーティをしたりします。これは子どもたちにとって非常に重要なことです。

水遊びの心をしずめる働きは、普段非常に活動し過ぎ攻撃的な子の、水遊びと他の行動とを比較すると尙更はつきりする。非常に扱いにくい四才のジャックという男の子は、庭遊びでは、庭を何回も走り廻り、友だちにげんこつをくわせたり、砂を投げたり、石を投げようとしたりして、非常に攻撃的であったが、水遊びでは、非常に注意深く、ゆっくりとお皿を洗ったり、他の子どもとも協動的で、仲良くお皿を乾したり、モップで掃除をした。…と觀察記録に述べられていた。

### ○解放する効果

水遊びは攻撃的な子を落ちつかせるばかりでなく、非常に引つ込み思案だったり、孤立的な子どもを刺激して自由にしたり今まででもなかつた社会的接触をもつようにする働きもある。普段、孤立的でオトオドしたり、ぼんやりしている子どもにも水遊びをさせると自然に他の子と混り合うようになり、表情も明るくなり、行動も自由になって、今まで近づかなかつた粘土やフィンガーペイントやイーゼルのような活動にも自発的に近づくようになる。

### ○水の多変性

なぜこの単純な物質が、このようにさまざまな効力をもつのであろうか。他のいかなる材料も——例えば粘土やフィンガーペイントすら、こんなにも多方面な性質をもたない。水のみくり返しのきく幾分単調な性質と、柔らかな感触と、どんなふうにも形を変えられる性質などが攻撃的な緊張した子どもを落ちつかせる効力をもつ、特別の熟練も必要としないし、達すべき目的もまたないことや、柔らかな楽しい感覚的性質は、引つ込み思案な抑制的な子どもに安心感と快地のよい刺激を与える。注いだりはねかしたり、めちゃめちゃにした

りする機会は、これらの子どもにも活動性と外向性を与えるばかりでなく、おとなの圧力から逃避したり攻撃欲の発散の手段を与える。水の著しい特長の無い性質は多数の効力のもの一つ理由である。水は少しも拒否を与えないし子どもにも何ら要求もしない。それでいて非常に多くの満足を与えるのである。幼い子どもでも、水は容易に扱い支配できる。彼らは水をどんなものにも変形できるし、彼ら自身の力で実験することもできるのである。

### ○水遊びに対する教師のアプローチ

水と遊びたいという要求はしばしば他の材料が取り扱われている時に示されることがある。例えば、子どもが粘土やフィンガーペイントをしている時に、水を要求してそれらをもつとやわらかくしたりする。子どもたちが要求した時すぐ使えるように水遊びの材料を揃えておくことが大切である。そしてその遊びがもつと進展するよう用意するべきである。大きな金物のたらい・洗濯のボール・小さな洗面器・石けん・しゃぼん玉の溶液・その他のあわたて器・水を注ぐもの・スポンジや布のように吸収性のあるもの・浮かばずもの・

じょうごやこし器・ゴムの小さな人形・人形の服・こわれないお皿・麦わら・しゃぼん玉にするのに有用である。彼らの考えや要求にしたがって遊びを發展させることができるように、出来る限り雰囲気自由にすることが望ましい。教師にとって大事なことは、教師の意図することは子どものそれとは違うかもしれない……ということを自覚することである。教師は、お皿を洗い人形をきれいにする結果を望むが、子どもは水をはねかしたり、めちゃめちゃにすることを望んでいるかもしれない。同じ皿をくり返しくり返し洗ったり、一つの人形に三十分も入浴させたり、棚からテーブルへ壁へ床へと掃除を払げていたりする時、子どもはもつと水遊びをしたいという要求を示しているのである。子どもがもつと水と接触したいにもかかわらず、その要求は簡単にかたづけられてしまう。教師が水遊びの意義をよく認識して許容的であれば、他の材料といっしょに使ったりして、水の魅力は一日中も続くことがある。或る教師は水遊びを女の子の活動とみなして、それ

をお皿を洗ったり、人形に入浴させたり、服を洗ったりすることに限定するが、水を自由に使わせてみると、テーブルや壁を洗ったり、しゃぼん玉をふいたり、器から器へ水を注いだりする活動に、男の子は女の子より熱心に参加したり、長く従事していることがある。就学前の男の子には母親との同一化の感情が必要であるのだが、掃除したりすることに男の子はそれを見出ししているのかもしれない。

### ○結論

要約すると、水遊びは非常に多くの価値をもち就学前の幼稚園のプログラムではいろいろの目的のために使うことが出来る。感覚や感情の発達にそれはいかなる他の材料よりも——但しフィンガーペイントは除外して——ずっと多くの経験と喜びを提供する。知的発達のためには、水の大きな柔軟性や、実験や探究のための広い機会が役に立つ。水は抑制的な子を刺激し破壊的な子の心をしずめる。不安感をもつ子どもたちは成功感を得て許されない情緒を許された方法で表現する路を見出す。恐怖心をもち引つ込み思案な子どもたちは水を使うことにより自由になって、心の

やすらぎと自発性の進歩を示すようになる。我々の観察記録は、彼らの活動が教師によって妨害されないことを気付きさえすれば、子どもは遊びに集中したり自発性に有望な進歩を示すことを述べている。大事なことは、おとなの監督を最小限にすること、いろいろな材料をととのえること、子どもたちの妨害を最小限にする組織、遊びのための中断されない時間である。おとなの監督は決して悪意でなされるのでないけれど、しばしば子どもの経験の真価を認めないことによることがある。教師は子ども遊びの意味をよく知り、個々の子どもの興味にあったスケジュールをたくみに扱うことを進んですべきである。水遊びのおどろくべき種々の利益は、或る教師たちの間で万能薬であることを期待する傾向にあるが、これは用心しなければならぬ。発達のどんな種類のプログラムにも、いかなるパーソナリティの困難にも効果的であるという明白な証拠はもっていない。我々が実証しえたことは、単に活動し過ぎる子や、興味や活動が圧迫されたりして問題のある子どもにも価値があるということである。(宇田川照子)

## 幼児の教育 第五十九巻 第八号

八月号 © 定価 五十円

昭和三十五年七月二十五日印刷

昭和三十五年八月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津守 真  
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館 にお願いたします。